

大 学 図 書 館 問 題 研 究 会 京 都

〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34

京都橘女子大学図書館 田北十生気付

(Tel) 075-574-4118

(Fax) 075-574-4124

「ゆりかもめ」で交流を!



「ゆりかもめ」のホームページ

<http://kuee2.kuee.kyoto-u.ac.jp/library/yurikamo.html>

「ゆりかもめ」メーリングリストのアドレス

yurikamome@kuee.kyoto-u.ac.jp

開設日 1998年4月1日(水)

1. 「ゆりかもめ」って?

「ゆりかもめ」は、大学図書館問題研究会京都支部が1998年4月1日から運営するメーリングリストです。大図研の会員であれば、どなたでも登録して参加することができます。(京都支部以外の会員も可)。

2. 「ゆりかもめ」のお約束

① 参加者は、大図研の会員のみです(京都支部以外の会員も可)。

② 参加者リストは、公開しません。

③ メールに、ファイルを添付しないで下さい。

④ 公序良俗に反しないこと、ネチケットを守って下さい。

⑤ 表題(subject)の規制はありませんので、忘れずに自由につけて下さい。

⑥ メールの内容も自由です。支部委員会のこと、こぼれ話、研究活動などへの要望、近況報告、お役立ち情報、おもしろ情報、助け合い運動、探し物、教えて下さい等、会員の親睦と交流を盛んにすることがこのメーリングリストの役割です。

目次	「ゆりかもめ」で交流を! 1 頁
	京大新システムの構築の経験を開いて 楽しみな6月の京都研究集会..... 2 頁
	大図研京都支部研究集会の日程..... 4 頁
	第7回支部委員会の報告 4 頁
	連載小説(6) リュウ..... 5 頁
	数珠つなぎ(26) 6 頁

支部報に関するご意見は最寄の支部委員または編集気付(京都橘女子大学)

☎ 075-574-4118 FAX 075-574-4124

♥ kazuodesu@ma2.justnet.ne.jp 田北まで

京大新システム構築の経験を聞いて 楽しみな6月の京都研究集会



竹本文夫

支部委員会は、2月下旬に澤居氏から京大のシステム更新に向けての取り組みについて2時間ほど話を聞いた。澤居氏は第二次ワーキンググループのなかの目録の中心的メンバーの一人であり、この6月に開催予定の第6回大学図書館員京都研究集会で報告をしてもらう予定なので事前に支部委員会として話を聞き、内容を煮詰める必要があったからである。

澤居氏の話聞き、その後支部委員会で内容を討論する中で、今度の研究集会は、報告者を含めすべての参加者にとって極めて意義のある集会になりそうだと確信を持つことができた。以下に澤居氏の話聞いた私の感想や意見、注文などを研究集会企画の一部にもふれつつ述べてみたい。

【徹底した情報公開に驚く】

システム構築が成功するかどうかは中心メンバーと現場図書館員との風通しの程度でできると云われている。京大の場合、まさにこの風通しが前代未聞の良さだ。正規の役職者の各種会議、文書の配布、目録担当者を集めた大きな会議、必要に応じて電話、場合によっては職場を訪ねる、圧巻は連絡用ホームページやメーリングリストを通じて誰でもすべての情報がリアルタイムで見られ、意見も述べられるようになっている。情報伝達が、文字通り考えられるすべてのルートを使われて行われている。その結果全学の部局図書館・室の目録担当者の80%に「いま、何が、どこまで検討され、現場からどんな意見が出ているか」が分かる状態になっていると云う。驚くべきことである。

【連絡用ホームページ、メーリングリストは何故活用されるようになったか】

すべての現場図書館員への情報の徹底が一朝一夕に出来ることでないことは言うまでもない。それができたのは、全学目録関係者の80%が連絡用ホームページやメールを見るようになったからだ云う。しかし問題は、どうやって多くの現場図書館員が、仕事に忙殺されているもとのホームページやメールを覗き、必要に応じて意見を書き込むようになったかであろう。

その理由の第一は、新システム構築の基本姿勢にあると思われる。即ち現場に依拠し、みんなで考え、その中でお互いに成長しながらよりよい図書館をつくろうという基本姿勢である。こうした姿勢が貫かれるならば、情勢に遅れないよう、連絡用ホームページやメールを覗き、自分たちの要求は出さなければ損と考えるようになるのではないか。実際はどうだったのか当事者の意見を聞きたいと思っている。往々にしてシステム構築の中心メンバーは、自分たちの考え=出来上がったプログラムを一方向的に押しつけがちである。それでは現場図書館員はシステム構築に余り関心を寄せない。

第二には、連絡用ホームページやメールが、絶えず情報が更新され、正確な最新情報をいつ

でも見る事が出来る、つまり、読むに値するもの、現場で必要とするものを供給しているからだと思われる。その労力と時間は大変なものであるに違いない。おそらく担当者は夜となく昼となく最新情報を入れ続け、内容を改定しているのではないだろうか。

第三は、ホームページやメールを覗いてもらうために様々な手立てを打ったことである。どれだけ良い情報を入れても読んでもらわなくては何にもならない。どんな方法や工夫の積み重ねでここ迄皆が利用するようになったのだろうか。その過程に興味をそそられる。ぜひその辺も詳しく聞きたいものである。

【いくつかの現場から多様な報告も聞けそう】

どこでも一定期間たてばシステム更新に迫られる。しかもシステム更新は莫大なお金と労力を必要とする大事業である。これが本当に現場と利用者により良いものになるかどうかは決定的に重要である。そのために私たちはより良い取り組みの事例を詳しく知る必要がある。中途半端に知っただけでは役に立たない。また、当事者も時々振り返って経過を総括する必要がある。更にたとえ良い事例であってもその批判点からも学ぶ必要がある。京大の場合にも一定の批判はあるようだ。また、一口に現場図書館員といっても大きな職場もあれば一人職場もあり、それぞれの置かれた条件やその人の個性によって反応は様々であり、澤居氏や支部委員からもそうした意見を若干聞くことができた。今回の研究集会では、報告は澤居氏以外にもいくつかの職場からしてもらおうと今取り組んでいる。多様な立場からの報告が聞けそうなことも今度の研究集会の楽しみだ。

【第二次ワーキンググループの課題は何か】

第一次ワーキンググループは約2年かけて「京大仕様書」を作成した。それを受けて第二次ワーキンググループが発足し、「京大仕様書」の具体化と新システムへの移行と安定した稼働を目指して活動を開始した。澤居氏の報告は、この第二次ワーキンググループの目録部門での取り組みが中心だ。

支部委員会で彼の報告を聞いた時、「京大仕様書」なるものがどんなものか、そしてその具体化とはどんなことなのかについてイメージがつかみにくかった。内容が多岐にわたり、説明が難しいであろうが第三者にもある程度イメージがつかめるよう何とか本番では工夫して報告してほしい。例えば、出発点となった第一回目録担当者交流会は、何のために開かれ、何を説明したのか、また取り組みの中頃ではどんなことが問題になったのか、新システム稼働開始期にはどんな事故や問題、要求が出たか。そしてそれらの問題をどのように解決したのか。こうしたことについて幾つか事例なりエピソードなりを交えて説明してもらおうと有り難い。この点は京大の当事者にとっても今後総括をするうえで案外役に立つのではないか。

【他大学の意見・経験・到達点との交流の重要性】

自分たちの経験・意見を整理・発表し、他大学の図書館員と意見交換することは、自分たちの取り組みについてプラス面、マイナス面を客観的に明らかにし、一般的な教訓とするうえで重要である。今回の研究集会が参加者の討論で客観的総括への第一歩ともなれば京大であると否とを問わず大きなプラスになるだろう。

いずれにしてもこの6月の研究集会は面白いものになりそうで楽しみである。

(たけもとふみお/元同志社大学人文科学研究所)

大図研京都支部 研究集会の日程

日時 6月20日(土) 12:30~17:00
会場 芝蘭会館(南大路通りバス停「東一条」下車すぐ)
内容 検討中(京大図書館新システムの取り組みについて)
関連記事を5月まで連載しますので、注目を!

第7回支部委員会の報告

【報告事項】

- (1) 京都支部研究集会の会場変更について
京大会館 → 芝蘭会館へ変更
- (2) 全国委員会の報告
- (3) 会員情報
京大と立命館大で大幅な人事異動があった。
- (4) 立命館大学図書館が「総合情報センター」に名称変更

【審議事項】

- (1) 支部報について(4~6月号編集記事について)
- (2) 1998年度研究集会について
- (3) 「ゆりがもめ」の運用について
4/7現在登録者数 12名、登録者の拡大を
- (4) 支部総会について
7月17日(金)に京大会館で開催予定
- (5) 次回支部委員会 5月12日(火)

参加者 篠原、竹本、大館、中嶋、井上、吾海、田北、堤

「数珠つなぎ」6 pageからの続き)

ところで、話をもどし、今度異動した理学部の図書室の紹介をして数珠つなぎを閉じた
いと思います。理学部は学生用の一般図書と共通雑誌を主に置いている中央図書室と各専
門分野の資料が置かれサービスをしている9つの教室図書室があります。数学、物理、地
球物理、宇宙物理、生物物理、動物植物、地鉱、化学、瀬戸臨海と多様です。今、新シ
ステムとどう取り組むかが大きな課題となっています。それらと絡まって年齢的な問題、一
人職場の問題、工学部とくらべると定員が少ない等、問題が山積みです。私は、とりあ
えず、走ってから考えるタイプ人間なので、理学という学問分野の先生方からお叱りを受
けることが多いと思います。しかし、環境問題の話と同じように、無駄を省いて、なるべ
くシンプルにしながら、いろいろな問題に取り組んでいきたいと思います。大図研の皆さ
ん、よい知恵がありましたら貸してください。

(次ぎは新システムWGで苦勞された医学図書館の谷口洋子さん)

リ ュ ウ



作 西田 治

「まあ、まあ、落ち着けよ！」と私は言った。

「そもそも、リュウが人が通ると同情を買うような声でなくから、見るに見かねたんだって。人を馬鹿にして！淳一！お前が部屋に上げたりするから、あんな犬になったんだよ。聞いてんの！？」

「聞いてるよ！」

「おめえ！リュウの世話ちゃんとやってんのかよ！」

「ああ～あ！それが母親の言う言葉かよ！」

「やかましい！ちゃんと答えろ」と圭子は立ったまま腕組みをして、淳一を睨んでいた。

「そうや！お母さんが悪い！」と美穂が持っていたコップを両手で乱暴にテーブルの上に置いて圭子を睨んだ。圭子はつい吹き出してしまった。

「圭子の負けだな。リュウの奴、やってくれるじゃないか」

「なに言ってるのよ。リュウの散歩が足りないらしいから、充分にさせてやって下さいって言われたのよ。なんで私がそんなこと言われなければならないのよ。一体リュウは、どこの犬なのよ！エッ！」と淳一に言った。圭子は余程悔しいらしい。

「そうや、お父さんが悪い！」と美穂は、私が読んでいる新聞を取り上げた。

「あのなあ、お前どうゆう立場で言ってるんだ！」

「新聞なんか読んでるからや」

「新聞とリュウと、どんな関係にあるんだ」

「美穂の言うとおりでわ。あんたが悪い！」

「うん」と美穂が頷いた。

「変な家族！付き合ってもらえないよ」と淳一は表へ出ていった。

「ちょっと、淳一！変な家族って何よ」と圭子が追い打ちをかけた。淳一の変わりにリュウがあざ笑うような返事をした。

「まあ、憎らしいったらない！」といいながら圭子は台所へ行った。私は新聞を引き寄せ、寝ころんで読み始めた。美穂が漫画を持ってきて、私の腰を枕代わりにして、同じように寝転がった。洋子までが喉をならして、私の読んでる新聞の上をお構いなしに歩いて、私の胸の下に潜り込んだ。

しばらくして、圭子がコップを片手に居間に入ってきて、「なによ。あんたたち。ゴロゴロして！」いいながら、本棚を物色していた。やがて、圭子も雑誌を持って来て、私の横に腰を下ろすと、美穂に頭がじゃまだから退けろという。美穂が枕代わりになっている私の腰を使おうという訳である。

「なんで美穂が先なのに！」と美穂が抵抗するのであるが「いいから、あっちへ行きなさい」と圭子も譲らない。

「ずるい！」といいながらも美穂は、圭子に押しやられてしまった。

(次号に続く)

